

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：16102  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2011～2014  
 課題番号：23530902  
 研究課題名(和文) セクシュアル・マイノリティの地域支援と理解促進の拠点づくり

研究課題名(英文) Community-based approach to Sexual Minorities

## 研究代表者

葛西 真記子 (Kasai, Makiko)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：70294733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の第一の目的は、LGBTの青少年に対する支援団体を作り、LGBTの当事者や家族の理解のための支援につながる情報提供やカウンセリングを実施することである。第二の目的は、「LGBTセンシティブ・プログラム」を開発しその効果を検証することである。児童生徒と関わる機会の多い学校現場の教職員や臨床心理士に実践し、LGBTに対する意識向上をはかる。

本研究の結果、支援団体の活動により県内外の当事者、支援者が集まり、臨床心理学的支援や情報提供を行うことが可能となった。また、「LGBTセンシティブ・プログラム」の実践によって教員や心理職の意識の変容が見られ、学校現場や臨床現場で適切な対応が可能となった。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this study were 1) establishing an LGBT support group for LGBT youth and their friends and family members, and 2) developing an LGBT sensitivity program for teachers and counselors. In 2011, we established SAG Tokushima, which is a community-based LGBT support group, and since then, we have organized self-help groups, family counseling, individual counseling, workshops, and LGBT festivals. We also developed an LGBT sensitivity program for teachers and counselors and conducted its short and long versions several times. We conducted two questionnaire surveys before and after the program. Results showed that after the program, scores for homophobia decreased and those for self-efficacy in dealing with LGBT students or clients increased.

研究分野：臨床心理学

キーワード：セクシュアル・マイノリティ 同性愛・両性愛 性同一性障がい 性別違和 地域援助 教員 意識変容 プログラム開発

## 1. 研究開始当初の背景

近年、同性愛 (Lesbian, Gay)、両性愛 (Bisexual)、性同一性障害 (Transgender) などセクシュアル・マイノリティ (以下 LGBT と略す) に対する社会の関心は大きくなってきている。異性愛が正常で同性愛が異常であるという偏見、差別、誤解が少しずつではあるが変化している。現在、国際精神医学会や WHO では、同性愛を異常、倒錯、変態とはみなさず、治療の対象からはずしている。アメリカ精神医学会は 1973 年 DSM - の第 7 版から同性愛についての記述を削除し、WHO も ICD - 10 で同性愛を治療の対象としないと明記した。日本では、1994 年に厚生省が ICD を公式基準として採用し、1995 年に日本精神神経学会が ICD を尊重するという見解を出した。また、法務省が 2002 年に「人権擁護推進審議会」の答申の中で性的指向 (Sexual Orientation) による差別を救済の対象とした。性同一性障害についても、2003 年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」(特例法) が成立し、2008 年には、「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン(第 3 版)」が作成され、治療機関ではこれに基づいて治療が行われている。

このような社会の中でも、依然として LGBT に対する偏見、差別、誤解が存在している。自らの性的指向に気づき始める思春期を過ごす学校現場においても、性教育や各教科内容や規則の中でも異性愛を中心とした価値観が根強く、例えば同性愛指向の生徒は、自分を理解する情報がなかなか得られず、自分の性のあり方を受け入れることが困難になる。また同性愛に関することでいじめられた経験があったり (82.7%、日高、2000 による調査から) いじめの現場をみたりすることによって、ますます同性愛者であることを隠し、自己否定的になり、孤立してしまう。Hetrick & Martin によればこの孤立には、社

会的孤立、感情的孤立、認識上の孤立の 3 側面がある。また、思春期は、性的同一性を形成する時期であり、性的指向の自己認識が重要な発達課題となり、その後の発達課題にも影響を与えるのである。しかし彼らが相談できる対象であるカウンセラーにも LGBT に関する知識のないものがほとんどであり、相談にいてもカウンセラーの LGBT への偏見や誤解やホモフォビア (同性愛嫌悪) を目の当たりにし何も言えないということになりかねない。このような状況の中で同性愛者が、抑うつ傾向 (50.3%)、強い不安傾向 (68%)、アルコール依存、薬物依存などの症状を示すことや、日高 (2000, 2006) による調査では、同性愛者の 64% が自殺を考えたことがあり、15.5% が自殺未遂の経験があることが明らかとなってきた。研究代表者は、挑戦的萌芽研究 (平成 18~21 年度) において、「セクシュアル・マイノリティへの心理的支援に関する研究」を行ってきた。その中で明らかとなったことは、LGBT の青少年が自らの性自認、性的指向について悩んだときに、身近に相談できる人が存在しなかったり、モデルとなる LGBT の大人が存在しなかったりすることが多い。現在、LGBT の当事者団体 (全国に 18) や支援団体 (AGP を始め全国に 3) がある程度存在するが、数が少なく、特に本県には存在しない。

また、挑戦的萌芽研究でセクシュアル・マイノリティへの心理的支援プログラムを考案し、LGB-Knowledge, and Attitudes Scale for Heterosexuals (LGB-KASH: 異性愛者の LGB に関する知識・態度尺度) の日本版を開発 (葛西・岡橋, 2011) し、日本における「LGB Sensitive カウンセラー養成プログラム」の実践とその効果検証を臨床心理士を目指す大学院生に行った (葛西, 2010; 葛西・岡橋, 2011)。

これらの現状をふまえ、本研究では、県内にセクシュアル・マイノリティの支援団体を

作り、セクシュアル・マイノリティの児童青年、成人を支援すること、また学校現場の教職員の理解を促進するためのプログラムを作成し実践することとする。

## 2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、LGBTの青少年に対する支援を身近な地域で提供できる場を設け、LGBTの児童青年、成人を支援すること、LGBTの青少年の家族や友人など周りの理解のための支援につながる情報提供やグループカウンセリングの実施を行うことである。

本研究の第二の目的は、これまで研究代表者が作成したプログラムの内容を拡大し性同一性障害も含め、「LGBT センシティブ・プログラム」を開発しその効果を検証することである。性の意識に芽生え性指向や性同一性に疑問を感じ始める児童生徒と関わる機会の多い学校現場の教職員がLGBTの様々な問題や発達に関してセンシティブな意識を向上させることにより、LGBT当事者の援助となると考える。また、これから教員となる教員養成系大学においてもこのプログラムを行いLGBTに対する意識向上をはかる。

## 3. 研究の方法

第1の目的である県内でのLGBT地域援助に関して、まず、LGBTに関する国内外の活動状況の把握を行い、同時に国内外の文献収集を行う。全国の他の地域で行っている地域支援や、地域支援の拠点等での活動状況の視察を行い現状を調査する。収集した情報・文献をもとにデータベースを作成し、ホームページを立ち上げ（SAG徳島）四国におけるLGBT関係のネットワークを広げ、その情報の発信を行う。

文献収集と並行してLGBT当事者のための個人カウンセリングや集団カウンセリング、自助グループなどを開始できるように積極的にホームページ等で広報を行う。LGBT担当のカウンセラーはこれまでの「LGBセン

シティブカウンセラー養成プログラム」を受講し、LGBTのクライアントさんたちの諸問題を理解しているカウンセラーが当たる。また、四国外のセクシュアル・マイノリティネットワークと協働して事例検討会や啓発活動を行う。

また、第2の目的のプログラムの作成と実施については、萌芽研究（平成18年～21年）で開発した「LGB センシティブカウンセラー養成プログラム」をもとに行う。葛西・岡橋（2011）の結果からは、日本のLGBに関する歴史的背景、社会事情等の違いを含有すること、対象を職種や年代で分けた方が効果的であること、効果測定の実尺の精度を高めることなどの課題が考えられた。そこで、今回は、LGBだけでなく、性同一性障害もプログラムの対象としてその内容に含めるので、LGBTそれぞれに関する日本の歴史的背景、社会事情等を調査すること、プログラムの内容を職種や年代によって異なるバージョンを作成すること、効果測定の実尺（LGB Affirmative Counseling Self-Efficacy Inventory : LGBに関する肯定的カウンセリング自己効力感実尺）の信頼性・妥当性（葛西, 2010）を高めるために調査を行うことの3つを行う。これら収集した資料等をもとに現職教員対象、教員を目指す学生対象のLGBT センシティブ・プログラムを開発する。そしてLGBT センシティブ・プログラムを学校現場の教職員、教員を目指す学生を対象に行う。その内容には、思春期に自己の性的指向に気づく過程、探索する過程、深める・関与する過程、内在化・統合の過程（McCarn & Fassinger, 1996）という4つ、LGBの自我同一性の発達の過程や、そのときにどのような支援が学校現場でできるのか、どのような態度が肯定的・否定的であるのか、保護者や周りの生徒への働きかけ、地域への働きかけとして何ができるのか等についても含める。そしてその効果について、実尺を

用いて検証する。しかし対象がカウンセラーではないので、尺度の項目を学校現場にあうように修正する（LGB-Teacher Efficacy Inventory の作成）。

#### 4. 研究成果

第1の目的である四国でのLGBT地域援助に関して、「SAG 徳島」という地域支援の拠点を発足した。運営委員約10名～15名で月に1度程度の運営委員会を2011年4月より行っている。当事者や関係者との交流会も開催し、徳島、四国以外からの参加者もあった。LGBTに関する国内外の活動状況の把握を行い、国内外の文献収集を行った。文献からは、日本のLGBTに関する歴史的背景や社会事情が明らかとなった。日本の同性愛・両性愛の方々にとって必要なサポートについて調査を行い、学会で発表した（伊藤・葛西, 2012）。これらの内容は、「Reproductive Justice: A Global Concern」として執筆した（Kasai & Rooney, 2012）。また、LGBTに関する事例検討会に参加し、関東における様々な心理的支援についての情報交換を行った。また、心理的支援として、当事者への臨床心理カウンセリング、当事者家族や学校教員への心理教育カウンセリングを行った。現在も継続中である。さらに支援を通して得られた知見をもとに研究論文にまとめた（伊藤・葛西, 2012）。

2012年には「SAG 徳島」主催による国際シンポジウムを鳴門、広島で行い、米国でのLGBTに関する現状理解や情報提供を行った。「米国の性指向に関する適切な心理療法的対応」の報告書を共同翻訳した（葛西他, 2012）。

地域援助に関しては、徳島県内広くセクシュアル・マイノリティに関する情報を知ってもらうために、2013年8月と10月に「徳島カラーフリー映画祭」を行ったり、地域に根差した活動として「お寺ワークショップ」を開催したりした。2014年度は、2月に「徳島

カラーフリー文化祭」を開催し、県内外からの参加者が自身のセクシュアリティを表現した（演劇、歌、手話、楽器演奏、絵画、立体芸像など）。

また、第2の目的のプログラムの作成と実施については、「LGB センシティブカウンセラー養成プログラム」を学会誌に投稿した（葛西・岡橋, 2011、心理臨床学研究）。その後、このプログラムでふくめなかった性同一性障害の内容についても研究するために、性同一性障害の方々へ調査を行い心理的側面について学会発表を行った（久保・葛西, 2011）。これらの知見をもとに、「LGBT センシティブプログラム」を開発し、そのプログラムを学校現場の教職員、スクールカウンセラーに実践した（6月、7月、8月、9月）。プログラムの内容については、「心理職へのセクシュアル・マイノリティに関する教育・訓練」として著書にまとめた（葛西, 2014）。プログラムの実施は、2時間から6時間であり、対象者のニーズに合わせて編成している。プログラムの効果は、現在論文にまとめている。

#### <引用文献>

日高康晴 ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者的役割葛藤と精神的健康に関する研究, 思春期学, 18巻3号, 2000, 264-272

日高康晴 ゲイ男性の抱える苦悩(2) 生育歴と自殺未遂, 保健師ジャーナル, 62巻8号, 2006, 660-663

伊藤瑠里子・葛西真記子 セクシュアル・マイノリティの抱える「生きづらさ」とソーシャルサポートの在り方 - 女性同性愛・両性愛者への半構造化面接を通して - , 鳴門教育大学学校教育研究紀要, 第26号, 2012, 95-104

葛西真記子 同性愛・両性愛肯定的カウンセリング自己効力感尺度日本語版 (LGB-CSIJ)作成の試み, 鳴門教育

大学研究紀要, 第 26 巻, 2011, 76-87  
葛西真記子 セクシュアル・マイノリ  
ティへの心理的支援、2014、109 - 122、  
207 - 220

葛西真記子・岡橋陽子 LGB  
Sensitive カウンセラー養成プログラ  
ムの実践—臨床心理士養成指定大学院  
での試み—, 心理臨床学研究, 第 29 号,  
2011, 257 - 268

葛西真記子他 アメリカ心理学会  
(APA)特別専門委員会における『性指  
向に関する適切な心理療法的対応』の  
報告書要約、心理臨床学研究、第 30  
巻、2012, 763 - 773

Kasai, M. & Rooney, S.C. The choice  
before the choice, Reproductive  
Justice: A Global Concern, 2012,  
11-28

久保祐子・葛西真記子 性同一性障害  
者における多様な性に関する調査, 日  
本心理臨床学会第 30 回大会発表論文  
集, 2011

McCarn, S.R. & Fassinger, R.E.  
Revisioning sexual minority identity  
formation, The Counseling  
Psychologist, 24(3), 1996, 508-534

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

戸口太功耶、葛西真記子、クィア・ペダ  
ゴジーを導入したカウンセリング心理学  
の可能性：カウンセラー養成における  
実践のための理論研究、鳴門教育大学学  
校教育研究紀要、査読無、29 巻、31-42、  
2014

葛西真記子他、研究委員会企画シンポジ  
ウム 3 教育の中のジェンダー問題 - 実  
践教育からの提案 -、教育心理学年報、  
査読無、第 52 集、230 - 233、2013

葛西真記子他、アメリカ心理学会(APA)  
特別専門委員会における『性指向に関す  
る適切な心理療法的対応』の報告書要約、  
心理臨床学研究、査読有、第 30 巻、763  
- 773、2012

伊藤瑠里子・葛西真記子、セクシュアル・  
マイノリティの抱える「生きづらさ」と  
ソーシャルサポートの在り方 - 女性同性  
愛・両性愛者への半構造化面接を通して

-、鳴門教育大学学校教育研究紀要、査  
読無、第 26 号、95-104、2012

葛西真記子・岡橋陽子、LGB Sensitive  
カウンセラー養成プログラムの実践—臨  
床心理士養成指定大学院での試み—、心  
理臨床学研究、査読有、第 29 号、257 -  
268、2011

戸口太功耶、セクシュアルマイノリティ」  
という言葉をつねなおす—性の多文化的人  
間理解としての西洋の中と外—、臨床心理  
学研究、49巻2号、pp.15、2011

〔学会発表〕(計 14 件)

戸口太功耶、セクシュアルマイノリティの  
説明モデルの体系化—教員とカウンセラー  
が現場で活かせる知識に向けて—、クィア  
学会(愛知県名古屋市)、2014年12月

葛西真記子他、公開シンポジウム：多様  
ないじめを考える国際フォーラム：日本  
におけるLGBTに関するいじめ日本生徒  
指導学会(徳島県鳴門市)、2014年10月

葛西真記子他、シンポジウム：多文化社会  
における心理援助：日本における教育と  
実践、日本心理学会第78回大会(京都府  
京都市)、2014年9月

Toguchi T., Kasai M., Phenomenologic  
al understanding of X-gender as gend  
erqueer or gender-nonconformity in Ja  
pan, The 122th Annual Meeting of Ame  
rican Psychological Association (United  
States of America, Washington, D.C.),  
2014年8月

Ito, R., Kasai, M., Difficulties of Life  
for American and Japanese Lesbian  
s and Bisexual Women, Counseling P  
sychology in Action (United States of  
America, Atlanta), 2014年3月

戸口太功耶、セクシュアルマイノリティの  
コミュニティにおける地域独自性と地域  
間問題、クィア学会(大阪府大阪市)、2  
013年11月

葛西真記子他、自主シンポジウム：ジェ  
ンダーコンシャスなアプローチ(8)—精神  
力動的心理療法にみるジェンダー -、日  
本心理臨床学会第32回大会(神奈川県横浜  
市)、2013年8月

戸口太功耶、Xジェンダーの現象学的心理  
学—「男」でも「女」でも「ある/ない」  
アイデンティティの意味、クィア学会(兵  
庫県神戸市)、2012年11月

葛西真記子、研究委員会企画シンポジウ  
ム：いわゆる性的マイノリティ(同性愛・  
性同一性障害など)に対する差別的ジェ  
ンダー化の問題 - 教育的援助のあり方  
について -、日本教育心理学会第54回總會  
(沖縄県那覇市)、2012年11月

Ito, R., Kasai, M., Difficulties of Life  
Faced by Japanese Lesbian and Bis

exual Women, The 120th Annual Meeting of American Psychological Association (United States of America, Orlando) 2012年8月

戸口太功耶、構成/主張された言葉—ジェンダー・アイデンティティを捉えなおす、クィア大会(東京都)、2011年11月

葛西真記子他、自主シンポジウム：同性愛者の心理臨床について考える その9 - 大学をLGBT affirmativeな場にするために -、日本心理臨床学会第30回大会(福岡県福岡市)、2011年9月

伊藤瑠里子・葛西真記子、同性・両性愛者の親の視点からのソーシャルサポートに関する研究、日本心理臨床学会第30回大会(福岡県福岡市)、2011年9月

久保祐子・葛西真記子、性同一性障害者における多様な性に関する調査、日本心理臨床学会第30回大会(福岡県福岡市)、2011年9月

〔図書〕(計 2件)

Makiko Kasai, Craig, S. Rooney他、Reproductive Justice: A Global Concern, Preger, 2012, 11 - 28 .

葛西真記子、セクシュアル・マイノリティへの心理的支援、2014、109 - 122、207 - 220 .

〔その他〕

SAG 徳島のHP

<https://sites.google.com/site/sagtokushima/>

## 6 . 研究組織

(1)研究代表者

葛西 真記子 (KASAI, Makiko)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授  
研究者番号：70294733

(2)研究協力者

Rooney, S. Craig

University of Missouri-Columbia

岡橋 陽子 (OKAHASHI, Yoko)

高知県スクールカウンセラー

伊藤 瑠里子 (ITO, Ruriko)

兵庫教育大学大学院連合学校教育実践学  
専攻・博士課程

久保 祐子 (KUBO, Yuko)

医療法人社団 三和会 しおかぜ病院・臨  
床心理士

戸口 太功耶 (TOGUUCHI, Takuya)

兵庫教育大学大学院連合学校教育実践学  
専攻・博士課程